

## 2007年度 総会挨拶

# 車体工業会活動の 活性化に大きな成果

車体工業会の会長を務めております内川でございます。

本日は社団法人日本自動車車体工業会第37回通常総会の開催にあたり、会員の皆様方にはかくも多数ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、ご来賓として、日頃よりご指導いただいております経済産業省自動車課課長補佐の鶴岡正道様、国土交通省技術安全部長の松本和良様にもご多用のところ、ご臨席いただきありがとうございます。

さて昨年度当会は20年振りに活動指針を改訂し、社会的責任を果たすために

- (1) アウトサイダー含む不正な二次架装の根絶
  - (2) 環境対応自主取り組みの推進
- と、当会の活性化を目指して
- (3) 会員への支援サービスの向上
  - (4) 組織充実化活動
  - (5) 広報活動の充実

の5項目を重点活動として取り組んでまいりました。

(1)「アウトサイダー含む不正な二次架装の根絶活動」については、各種PRパンフレット配布、雑誌や新聞広告、説明会等で会員以外も含めた業界全体への再徹底活動や、各地域単位で販売店と共同での研修活動等多面的な活動を実施した結果、会員企業では不正な二次架装が根絶していることを確認できました。しかしながら、非会員企業も含めた業界全体への根絶意識付けはまだ十分とはいえませんので今後とも活動を継続していく必要があると考えております。

(2)「環境対応自主取り組みの推進」のうちCO<sub>2</sub>排

出量削減については、コージェネ設備導入や塗装設備改善等会員の皆様の努力により、「CO<sub>2</sub>排出原単位で1990年比36%減少」という大きな成果を得ることができました。しかしながら生産量が小型車を中心に約1.5倍に増加したことから、総排出量ではまだ目標に到達していないため、引き続き関連する団体とも協力しながら、低減活動を推進していく必要があります。

また新たに、塗装工程でのVOC排出削減につきまして「2010年度に2000年度比原単位で50%削減」という高い自主目標を定め、具体的活動を開始しました。

商用車架装物リサイクルの自主取り組みについては「協力事業者制度」の拡充、環境負荷物質の使用削減、リサイクル設計の推進、環境適合ラベルの普及等を計画通りに推進できました。

(3)「会員への支援サービスの向上」では海外市場に関する情報等の会員支援情報の提供や会員アンケートに沿ったサービスの充実化を図りました。

(4)「組織充実化活動」では今年度から活動指針を改訂し、委員会組織体制も変更し、さまざまな新しい取り組みを詳細な年間計画に基づき活動を始めました。初年度としてほぼ順調にスタートでき、委員会単位でのPDCAサイクルが定着しつつあることが大きな成果と考えております。

(5)「広報活動の充実」では、ホームページや機関誌「車体NEWS」のリニューアルをいたしました。

また2007年東京モーターショーについては、会員が出展しやすい条件作りを進めた結果、短期間開催で出展料の安い屋外展示場を設定することができ、



会長 内川 晋  
(関東自動車工業㈱ 取締役会長)

現在、具体的な出展準備を進めています。例年どおりモーターショー開催初日の10月26日には、「車体工業会 秋季会員大会」も開催いたしますので、併せてご参加をお願いいたします。

その他に継続定例活動として、各種法規変更への対応、審査登録の自主管理作業や見学会、講演会等のイベント開催などもほぼ計画どおりに実行することができました。

以上のように2006年度は当会活性化への業務シフトを開始し多くの成果を得ることができた年と考えておりますが、最近では「車体工業会の活動内容も変わってきた」というご意見もたびたび聞くようになり、大変うれしく思っております。

これらの成果も、ひとえに会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 新会長挨拶

# 「会員企業の繁栄」を念頭に活性化を推進

久保地 理介 (トヨタ車体㈱ 取締役会長)



会員皆様のご推挙により車体工業会の会長をお引き受けいたしました久保地でございます。高木副会長、田中副会長、比企副会長はじめ「各部長、各支部長」のご協力を得ながら会を運営していきたいと思っております。

内川前会長におかれましては、素晴らしい先見性と強力な実行力をもって車体工業会をリードいただき、先ほどの事業報告にもありましたように多くの成果をあげることが出来ました。たいへん感謝申し上げますとともに、今後とも新しい立場でのご指導をよろしくお願いいたします。

さて、2007年度の国内商用車市場は排気ガス対策買換え需要が一巡したことにより中大型車市場については8万台レベルと前年比2割減の予測が出ています。更に、一昨年以降の鋼材、アルミ材、樹脂等の原材料価格の高騰や安全・環境対応でのコストアップ要因も重なり、厳しい経営環境が続くと予測されています。

このような状況の中、先ほどご審議いただきましたように、当会は「不正な二次架装の根絶」や「環境目標達成」などの社会的責任とともに、「車体工業会の活性化」を継続重点課題として取り組まますが、その活性化に最も重要なことはCSRの思想を持ち出すまでもなく、世のため人のためをベースにした「会員企業の繁栄」であることを念頭におきまして、皆様に一層役立つ車体工業会を目指して活動を進めてまいります。

特に業界での部品の標準化、共通化のような前向きな施策を取り入れたいと考えておきまして、会員の皆様方には、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。よろしくお願い申し上げます。